

「真宗本廟清掃奉仕団」記

七月十九、二十日と一泊二日で本山同朋会館へ清掃奉仕に行つて来ました。旗と提灯のお礼に、本山の草刈りなどはりきつていこうと思いきや、大型台風接近。それにはめげず京都入りすると、思いのほか雨が少なくて、一日目は御影堂の広縁をからぶきし、二日目は台風一過で晴天に恵まれ、台風後の散った木の葉をはいたり溝の草を引いたりして同朋会館の前はすつきり美しくなりました。



推進員の中からできた草朋会は、難しいこととはなかなかわからないけれど、誰でもなじみのある草刈りやそうじ等の奉仕から活動して行こうとつけた名前でありましたが、教導の松本曜一先生から「深い名です」と言われ、一同びっくり。草というものは親鸞聖人は群萌と言ひ大切にされる。いし、かわら、つぶてのごとくなるわれらという言い方をされて、

| 日時 | 19 日(火) | 20 日(水) |
|-------|---------------------------------|------------------|
| 6:00 | | 起床 床掃 |
| 6:50 | | 晨朝参拝 (両堂) |
| 9:00 | 9:00 朝食 | 朝食 |
| | 10:00 清掃奉仕 | お内仏のお給仕 |
| 11:20 | 両堂参拝 | |
| 12:00 | 結成式(講堂) | |
| | 昼 | 食 |
| 13:00 | オリエンテーション | おはなし おはなし合ひ |
| 15:25 | 清掃奉仕 (御影堂) | 15:30 解散式(講堂) |
| 16:20 | 夕事勤行(講堂) (調声・感話) 夕食・班長連絡会 | |
| 18:30 | おはなし おはなし合ひ | |
| 20:30 | 入浴 就寝 | |
| 22:00 | | |

※ 日程は都合により変更することがございます。

それが如来の力によって黄金に変わるといふことが「能令瓦礫變成金(のうりようがりやくへんじょうこん)」という言葉で伝えられている。それに通じる言葉だと教えていただいた。

松本先生は終末期医療に関わる大阪のNPOビハラ21の理事をされていて、さまざまな看取りの経験をお持ちのようで、じっくりと私たちの内面をほりさげて下さいました。お説教を聞くと言うのではなく、参加者に次々と問い、考えさせねばおかないという静かな力を持って・・・。

初めに、浄土真宗のイメージ、どんなかんじがするかを聞かれました。ありがたみにかける、むずかしい。専門用語を使わずにひらがなで話してほし

いと、意見を聞いて、分かりますが、日常生活では表しきれない言葉というものが

があるのですよ。日常ではあまり考えないことだから、その言葉によってその世界が与えられるということがあるのです。言葉の方に付いて下さい、と。

次に大切なものは何だと思いますか？いのち、親兄弟、お金、家族、健康・・・と日常的に、それが多いほど豊かということがありますね。仏教というのは、日常では、見えなかったものが見えてくるということがあります。

大切だけじゃなくて、美しいとか、尊いと感ずることはありますか？そういうものは、受け取る方がその世界を持っていないと受け取れないのです。

夏のセミは夏を知らないということがあります。夏に生まれ夏に死ん



でいくセミが夏を知っているかと言えば、春夏を知ることもしなければ夏が夏であることも知ることはできないということです。生きていくというだけでは、その素晴らしさが分からない。わからないまま死んでいく。セミといっしょだというわけです。死ぬ時にならなくても生きていくことの素晴らしさが分かるということがあればいいですね。

どんどん深いところへ引き込まれて行く間に、お夕事の時間。岡崎教区の同じ第七組の人たちや、修練生といっしょに正信偈。なんとYさんが初の調声。緊張しながらもしっかりリードしてくれました。そして感話はKさん。病気をしたことで、見えないものが見えた。健康の素晴らしさ、家族のありがたさ。今の仕事に出会い、人のためにはたらくことがありがたい。言葉の中にいつもその時のKさんの思いがあふれるようで、心にジンと来るお話です。本山で、違う地域の門徒さんや、これから教師になる僧侶たちの心に残ったに違いないと思います。

ふと、「能令瓦礫變成金」って、そんな自分では残念に思ってしまうことが、実は大切なことを教えてくれるということでもあるのかと思います。親鸞聖人が大切にされた言葉です。

食事は皆、当番として配膳を手伝います。皆が揃ったら、食前の言葉をいって、いただきます。今回同朋会館への来館記念品はその食前食後の言葉の書かれたタペストリーでした。

夜は又また座談です。今度の問いは、いのちはどこにあると思いますか？

そりゃあ自分でしょう。でも自分のものではない。つながって来たもの。食べ物も自分のいのちになる・・・。問われれば、ふだん考えたことのないことが自然に考えられていく。いのちは見えない、働きとして見えるだけ。自分の身体でもさんざん使っておいて、ちよつと働きがわるくなると、文句をい言う。心臓なんて私たちが寝ている間も休みなく働き、一日で10万回打つそうです。1年では3650万回。



私たちは役に立ついのちと、役に立たないいのちというふうに見ている。仏教ではいのちを平等に見れる、観じられるのです。

煩惱とは何でしょう？欲？もうあんまりないな。健康であったらいい。ほどほどに。：そういうこともみんな欲なんです。思わず腹が立つ、怒り、腹立ち、そねみ、妬み：平和に過ごせない私たちのあり方があります。他仏教はそれをそぎ落としていこうとするのですが、真宗ではそれは自覚し、それを超えるものを追及して行くのです。

自分の世界は、自分の言葉の積み重ねの世界で、その中からしかものを見ないと、それ以外の物を受け取らない。わかっているつもり、見ているつもり。それが破れないと、世界に出会えない。

仏壇の形は何の形でしょう？これはお教で語られた浄土を形にしたものです。形として表されたものに一度よりそってみる、学んでみる。浄土真宗は、西方浄土へ念仏によって往生するという形があるのです。法事や儀式という形がそこに込められたことと出会って行く入口としてあるのです。

どのように死んでいくのか、念仏者としての死とは何か。生き甲斐があるなら、死に甲斐もあるはず。帰るところは浄土と見定めて死んでいくのか。だんだんに弱って来ると、はよお迎えにとばかり言う。ある念仏者の言葉「ものわすれが、ようなりましてなあ」。

千と千尋の神隠しというアニメがあります。千尋という少女が迷い込んだ世界で、名前を千とつけられ、湯屋で働くことになりました。そこには同じく名前を奪われた少年がいる。名前を奪われるとは、自分自身を奪われ奴隷になること。アニメの中ではそれを取り戻していく姿が描かれます。名前にはそれがあらかず世界がある。逆に芸名やペンネームなどたくさん名前を持つのは、その分世界を持つことでもある。病気でも病名が付けば、それにもなう経過が分かり、治療法があったり、薬がある。

法名をいただくということも、その世界と出会って行くということです。念仏成仏これ真宗という世界に出会い、伝えられてきた真宗門徒の物語を伝えて行ってほしいと思います。